

出席者：坂田貞二、臼田雅之、水野善文

### I. ポロック編著書評の件

8月末までに原稿提出→各運営委員にメール添付にて配布→9月10日(土)の運営委員会にて全体の調整を検討。総論の執筆(水野)。必要に応じて書き換え依頼→年末までに南アジア学会英文雑誌編集委員会へ提出。

### II. 論集に関して

#### 1) 原稿締め切りの変更：2012年12月末→2012年6月末へ

これは最終締め切りであり、これ以前に完成したものは適宜提出→『南アジア言語文化』にて刊行へ(2011年度中には必ず)

2) 4本柱(せめぎ合う文学伝統、文学の場、言語表現方法、歴史的事象と文学)のうち、「言語表現方法」を「表現方法」と拡大し、音楽、演劇、舞踊、絵画も含める。

### III. 究極目標の『南アジア(インド)文学史』の構成

1) サンスクリット→ペルシア→英語という基幹言語の流れを踏まえて、諸言語による文芸の、その基幹言語との関わりの様を論じる。

2) 倒叙体(現代から時間をさかのぼる)はどうか? : まず現代の各言語による文学状況をサーベイし、適当な時代的節目ごとに(たとえば、分離独立期、20世紀初め、19世紀初め、大反乱)遡って、変容の前段階を示し、その経緯を解き明かす。

<現代の需要にマッチしている。しかも、特異性あり。>

☆そのためにも現代の文学事情の掌握が必須。

: 坂田インド出張にて資料調査(katha、Sahitya Academi, National Book Trust)

: 次回研究会(11月12日)での報告(石田先生に依頼)(現代タミル: 袋井さん?)

#### 3) 各言語による文学の共通トピックとして

①口承と書承

②ラーマ物語

③媒体(貝葉、紙、印刷、メディア)(→小西正捷先生に講演依頼? ショーバー・ラニ(大谷大)?) <1月にも研究会開催しては>

etc.

#### 4) 日本文学史におけるインド文学(→前田雅之(明星大学、今昔物語、一角仙人)講演依頼?)

☆以上を加味した構成(目次)案を臼田が9月10日の次回運営委員会にて提示、検討。11月12日(土曜日)<予定>の全体会議でさらに議論を重ねる。